

医療安全管理室統計

【インシデントレポート報告の情報収集と改善策検討】

令和2年度の総報告数は667件であり、前年度より40件減少した。要因は4階病棟と透析室の報告数減少である。部署別報告割合において、前年度との差は見られない。概要別報告割合(図1)では、薬剤関連と治療・処置の割合が増加し、栄養・給食の割合が減少している。薬剤関連では無投薬、投与時間間違いが増加していた。注射液の投与時間間違いに対し、注射指示入力時の設定時間変更を行い、深夜勤務帯での払い出し注射液の内容確認を徹底した。レベル別報告割合(図2)では、転倒・転落後の要観察患者や治療・処置の報告増加に伴いレベル2aがやや増加している。1年間の主な事例対応では、食品アレルギーや薬剤アレルギーに対する防止対策のすり抜けにより、患者にアレルギー食品の提供や薬剤投与が行われた等の報告があった。それぞれ発生現場の状況調査と問題点に対する業務改善や対策の検討を行った。また、転倒・転落後に多職種ラウンドを行い、患者の状況に沿った環境調整、抑制の必要性等を検討し対策を実施した。結果、報告件数増加に比し外傷、骨折の発生件数の減少がみられ、職員に転倒・転落防止対策が浸透してきたと判断する。

図 1

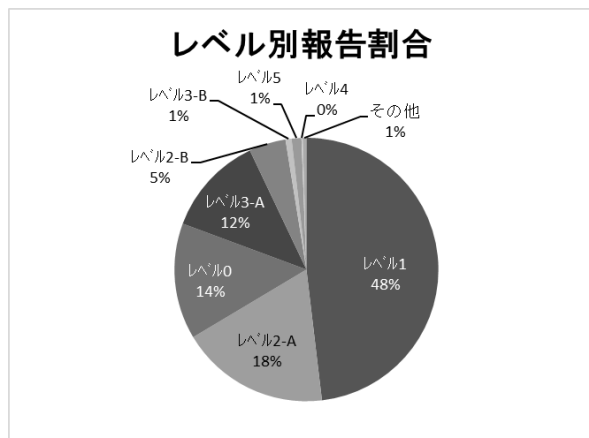


図 2

